



2015年8月 第45号

「白子川源流・水辺の会」会報紙

- 上映会『柳川堀割物語』報告
- アユ、源流で放流
- 川の一斉調査 報告
- 新会員紹介
- ◆ 創作「天の神様だけが知っている」
- ◆ 連載 源流探歩⑥
- 定例活動報告

白子川な風景 9

守る人、守るべきもの



大泉南小の白子川見学の途中で
練馬区による定例の
水草の刈取り作業に出会った。

生徒たちにとっても
地域の人にとっても
めずらしい光景かもしれないが
川はこうして守られている。

市民も学校も私たち市民団体も
そして行政も、
川を気にして、川に関わっている。

昔の、村人総出の“川普請”のように
みんなで汗を流して
練馬の貴重な自然環境を守りたい!!

(写真・渋井良郎/文・菅沢 博)

*「白子川な風景」(連載9回)は今回で終わります。長い間お読みいただきありがとうございました。

定例活動報告

4月 5月 6月 7月



水辺に あそびに来て、いつの間にかお手伝いをしている子どもたち。
6月定例後に、きれいに刈り取られたウキヤガラとガマの跡。お見事！

＊源流域・水の測定データ

測定地点	日 天気 気温℃	4/26	5/24	6/28	7/26
		項目	☀️ 22.5	☀️ 30.2	☀️ 28
源流部	水温℃	23.2	29.2	22.5	18
	水深 _{cm}	18	7	18	13
	pH	6.5	7.1	7.3	5.8
井頭橋	水温℃	19.5	23.1	22	20
	水深 _{cm}	33	19	31	32
	pH	8.7	7.2	6.5	6.0

※このほか、透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量などを測定している。pHは水素イオン指数で、pH7が中性、これより大きいとアルカリ性、小さいと酸性を示している

定例活動時の服装 紹介



はじめて、いつもの…風景。
見上げる空は、格別、特別、別世界。

小さな白子川の川底から

(東谷昌弘)

押し寄せてくるんだ。
一度、みんなも胴長着て
きゅんっ！
すいぞー！

ぜんぶこむのできるからね。水が深い所も
平気で歩けるんだよ。だけど、水の力は、

活動記録

- 5/ 8 入間川アユ標識放流参加
- 10 火の橋下でアユのテスト放流
- 12 大南小4年担任の川体験
- 18 大南小4年生川を観察
- 23 運営会議
- 24 定例活動
- 6/ 7 身近な川の全国一斉調査に参加
- 12 大南小4年生川の体験①
- 14 第15回定期総会

- 6/23 大泉図書館で白子川展示(9/27迄)
- 27 運営会議
- 28 定例活動
- 7/12 『柳川堀割物語』上映会
- 25 運営会議
- 26 定例活動
- 8/22 運営会議(源流まつりの企画会議)
- 23 定例活動

環境問題に取り組みたくて

羽沢在住 渋谷 誠

皆さん今日は、羽沢の渋谷誠と申します。入会して初めて知ったのですが、当会には、シブヤを名乗る仲間が二人いることが分かり、親しみを感じております。

今日の環境問題を考えるに、自ら地元で環境問題に取り組みなければならないと考え、練馬区役所のホームページで「環境活動団体」の一覧表が掲載されていることを知りました。その中に当会が掲載されており、すぐさま菅沢代表に連絡を入れました。そして白子川で菅沢代表から活動内容を説明していただき、感銘を受け、とりあえず活動に参加させていただくことといたしました。

活動は新鮮で、私にとっては非常に勉強になることばかりでしたので、入会を決意し、入会させていただきました。何回か活動に参加している内に、今日はこの一帯の草取りをするぞと目標を決めるようになり、目標を達成できた時の達成感は何ともいえないものでした。

今後共活動には参加させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

アユ prj 4



アユ、源流で初放流

アユが源流域で育つかどうかを調査するために5月10日、地元の親子が見守るなか火の橋下に約800匹を初放流した。荒川の稚アユにとって、水温は低すぎないか？水量はたりるか？と心配は尽きないが、7月末に岡崎会員が火の橋の下でアユを確認している。これからも追跡調査を続けたい。放流では埼玉漁協、小林さん、荒井さんほかのみなさんに大変お世話になった。(菅沢 博)

川の一斉調査

6月7日(日)、新河岸川水系水環境連絡会が主催する「身近な水環境の一斉調査」(毎年6月第一日曜日)に参加し、「源流部」「日の出橋下」「中島橋下」「新橋戸橋下」の調査を行った。報告は、一昨年から“データ入力シート”方式となり、更なる深度ある分析結果が期待される。また、今年から新たに、①「法政大学水研究分析のための採水」と②「臭いや見た目、ゴミ量調査(個人の感触、感覚、主観でOK)」が加わり、岡崎さんがフィールドワーカーとしての観察眼と感性を十分に発揮し詳細な結果を報告しており、集計結果のフィードバックが待たれるところである。因みに、一斉調査の取り組みの経緯は以下のとおりである。

1995年：建設省荒川下流工事事務局が新河岸川に流れ込む5つの河川(白子川他4河川)を対象に参加者を募り懇談会発足 ⇒ 当会初代代表の本田さんが個人参加、1996年：第1回一斉調査実施 ⇒ 本田さんが個人参加、1997年：新河岸川流域川づくり連絡会結成 ⇒ 練馬白子川源流・水辺の会として参加、2001年6月：当会発足、2004年：“全国一斉調査”実施…よって、今年では会としては15回目であるが、個人参加を含めると20回を数えることになる。定例活動時の水質調査も含め、長期に及ぶ調査結果について、会の活動にどう活かすべきかを改めて考える時期にあるのかもしれない。(永井 薫)

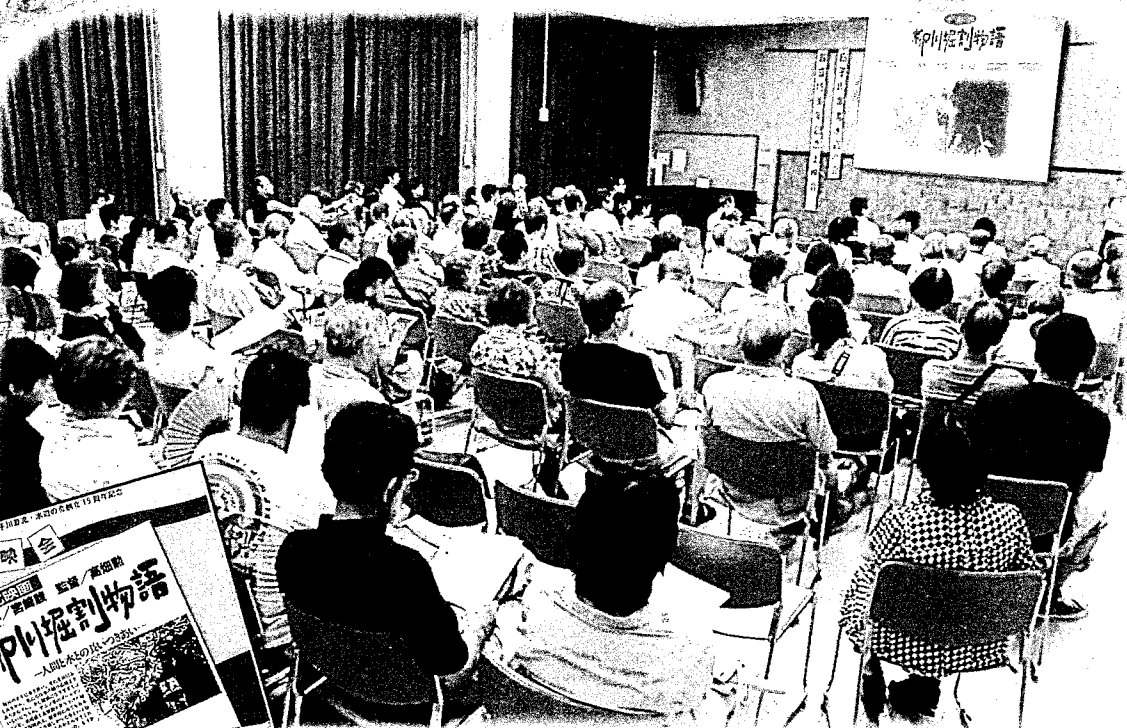
高畑勲監督『柳川堀割物語』上映会 報告

7月12日(日)練馬勤労福祉会館にて、会創立 15 周年記念イベント『柳川堀割物語』の上映会を開催しました。3 時間にも及ぶこの長編は 1987 年の作品で、アニメ界で知られる高畑勲監督と宮崎駿製作というゴールデンコンビによる初めての実写映画です。高畑勲監督も参加され 127 名の参加者と一緒に鑑賞されました。

日本の高度経済成長期、水郷柳川の水路は見捨てられ、川はドブ川と化して、埋め立てられ暗渠となる運命にあった。そこに異を唱える一人の市職員が現れる。その人の堀割への熱い思いと粘り強い訴えが次第に住民を巻き込み、水郷柳川の再生を果たしていく。柳川の成り立ちを歴史的科学的にも丹念に解説し、連帯して川を再生させていく人々の姿を力強く、そして情感豊かに描いた見応えのある映画でした。

鑑賞後 57 名の方が感想を寄せてくれました。多くの方が、自然と共生して暮らす大切さや人と人とのつながりの大切さ、映像の美しさや印象に残った言葉を取り上げていました。その中のステキな感想をご紹介します。

「水路の浄化が一人の公務員の熱意と頑張りによりすでに決定済みの行政の方針をひっくり返したことに感心した。市長も含め“人間として”考えた結果なのだろうが、やればできるんだ！と、身近な問題への新たな視点を得たように思う。簡単・便利・進歩・科学への盲信を捨て、“わずらわしいつきあい”を取り戻すことが、自治、共同、連帯感を創り出すという事実、あらためて感激、意を強くした。映像がきれいでした。」(60代・女性) (東谷貞子)



上映会開催のいきさつ

白子川源流・水辺の会が創立 15 周年を迎えた今年、片野令子さんが会報 43 号に掲載した「白子川現代史」で、高畑勲監督と宮崎駿製作の映画『柳川堀割物語』に触れたことで、「今また活動の指針を見いだせるのではないかと、観てみよう！」となった。会員の中に当時観たという人がすぐにパンフレットを持ち寄ってくれた。この格調高いパンフレットをみた瞬間、もうこの映画を私たちの創立記念イベントの主役にしようということになった。DVD があるというので数人で観て、是非上映したいという話になった。高畑勲監督の快諾を得て、当時のパンフレットの写真や文章も使わせていただき、素敵なチラシやパンフレットもできあがった。



上映会終了後、同館内のレストランで高畑監督のお話も兼ねた懇親会を開きました。

美味しいお料理の後、映画撮影の秘話やその後の柳川の様子などもうかがいました。私たち会員にとっては、地元にお住まいの監督が昔の白子川のことを若い頃からよくご存じで、今も気にかけてくださることがとてもうれしく感じました。



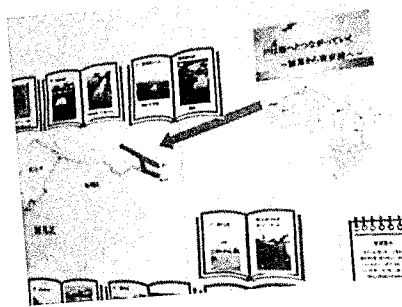
定期総会の報告

2001 年 6 月に 35 名の地域住民が一堂に会して当会の設立総会が開かれてから 15 回目の総会が 6 月 14 日に開催された。第 2 部では、水質悪化や湧水の減少が進む源流のあり方についてフリーディスカッションを行い、多くの懸念と対案が出された。会として本格的に取り組む機会が少なかったという反省もあり、その足掛かりとなった。これからも様々な場で検討を進めていきたい。(菅沢 博)

大南小の 白子川学習 今年もスタート！

今年も 5 月 18 日から大南小学校 4 年生の白子川学習がスタートした。総合学習への当会の支援として始まった 2001 年 7 月から延べ約 3,000 人余の生徒が白子川に関わったことの大きさと責任を意識してこれからも続けていきたい。(菅沢 博)

大泉図書館 白子川の展示



大泉図書館では只今、2 階に上がる階段の左壁面に『白子川』が展示されています。「川は、時に災害をもたらすが、昔からたくさんの恵みを私達人間に与えてくれた。この身近にある自然あふれる白子川を地域のみinnで大切にしていかなければ」と、今回の展示で取り上げたそうです。白子川が東京湾に流れ込む経路、50 年前と現在の風景、源流の生きもの、当会の活動を紹介、「地域資料コーナー」には白子川の資料があります。展示は 9/27 まで。ぜひ、ご覧ください。(菅沢恵子)

源

流

探

歩

⑥

岡崎一成

公園を小さな緑のダムに

森林は、たくさんの雨をため込みます。長い間雨が降らず日照りになっても、ため込んだ水を地下水や川に流し続けてくれます。それゆえに森林は「緑のダム」といわれています※1)。

□ 白子川では洪水対策の河川改修工事が進められています

河川改修工事は、川幅を広げることで対応することが原則とされています※2)が、白子川の場合、川沿いに住宅などが密集して建てられているため、川幅を広げることができません。川底を深く掘り下げることで対応しています。そのため、コンクリートの直立護岸は深くなり、川は私たちから物理的にも精神的にも遠い存在になってしまっているように感じます。また、河床をすべて掘り返しますので貴重な生き物たちの生息環境が消失してしまいます。

□ なぜ、白子川で洪水がおこるのでしょうか

下水道は、雨の40%が大地に浸み込み、残りの60%が下水道に流れ込む設計になっています※3)。しかし、コンクリートに固められた現在の街では、80%の雨水が下水道に流れ込み※3)、川に集められるため川があふれてしまうのです。

また、練馬は集中豪雨の多発地帯※4)になってしまいました。原因はヒートアイランドのためといわれています※5)。

□ 公園を小さな緑のダムに

木を植えると、雨の浸透力・保水力が高くなります。
よい土壌をつくると、雨の浸透力・保水力が高くなります。
緑が増えると、ヒートアイランドがやわらげられます。



豪雨やヒートアイランドを緩和するために緑地を増やしたいですが、その土地を確保することは難しいです。そこで、大泉には大小の公園がかなり多くあります。それらの公園の植栽エリアは、木がまばらにしか植わっていないところや土がカチカチなところが多くみられます。公園に木を植え緑を濃くして、よい土づくりをすることで雨の浸透力・保水力が高められ、洪水の抑制、ヒートアイランドの緩和の一助になるのではないのでしょうか。また、生き物にとっても良い環境になります。そして、枯渇が懸念されている白子川の湧き水を守ることもなります。

ひとつ、ひとつはとても小さな効果かもしれませんが、そのような小さな効果を積み重ね、制約された中での最大限の効果を図ることで、よりよい結果が導き出されてくると思います。

※1 林野庁(森林管理局) ホームページ、他

※2 中小河川に関する河道計画の技術基準について(平成22年8月 国土交通省河川局)

※3 新雨水整備クイックプラン(平成16年 東京都下水道局)

※4 東京都豪雨対策基本方針(改訂)(平成26年6月 東京都)、他

※5 ヒートアイランドガイドライン(平成24年度版 環境省)、他

天の神様だけが知っている 池田 正

8月の初め、白子川源流の石の上でアズマヒキガエルが座っていた。まわりを眺めながら、ヤナギやサクラに飛んできてジージーと鳴くアブラゼミの声に聴きほれていた。そして、時々ニヤリと笑みを浮かべていた。

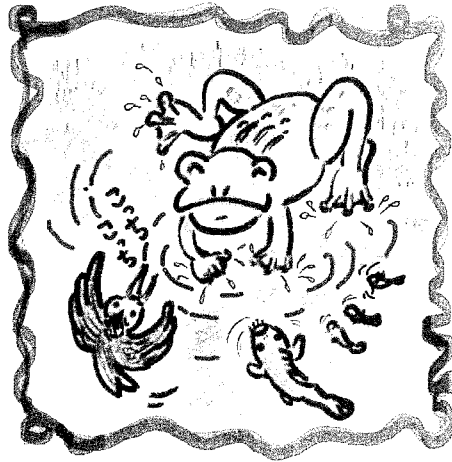
そこへ、親友のホトケドジョウやカルガモの親子が集ってきた。さらにメダカも寄ってきて、カエルに、暑い真夏なのに何故笑みがこぼれるのか理由を尋ねた。するとカエルは、——白子川とその周りの地形、そしてそこに住んでいる生きものによって、壮大なドラマが演じられているように感じられてきたんだ。生きものの中にはヒトもはいる。そのドラマは常に新しく、休息も静止もしないんだ——と笑いながら答えた。

ジージーと鳴くアブラゼミはわずか2週間程地上で生きるために、地中の暗闇で約7年間植物の根の汁を吸って成長する。そしてこの2週間、恋人探しに熱中する。ジージーは恋人のために奏でられるセレナーデでもある。猛暑日であろうと、地上にいる間に歌い続け、時が来れば自ら命を絶つという悲しい運命の持ち主である。川岸にあるサクラの枝から飛び立つ1匹のアブラゼミが、待ちかまえていた1羽のヒヨドリに捕まえられた。ジージーとくちばしの先で羽をばたつかせていたが、やがて飲み込まれていく哀れな一生を終えた。

6月の中旬、1匹のアズマヒキガエルが、源流の

東側にある坂道を下りてきた。源流に住み家を持つようになったカワセミがそのカエルに「どこへ行くの」と尋ねた。するとカエルは、声を詰まらせ、涙を流しながら答えた。

——私は、長い間、ほかの空き地に住んでいた。こんどそこが整地にされるため、隅の方に住み家移した。ところが、整地にし始めたら、何と4300年前の縄文時代の土器が出てきた。当時、竪穴住居でヒトが住んでいたし、我々カエルもヒトと仲良く共生していた。多分、縄文時代のヒトは木の実や狩りや川魚をとって生活をしていたから、我々カエルも食べていたと思う。だが、皆殺しにはしていないはず。だって子孫の私が



生きているし、この近くにもまだ多くいると聞いている。ところが、その遺跡の調査が済んだら掘りおこした跡地に凝固剤を混ぜて土を固めた。コンクリートのように固くなった土の中にはもうもぐり込めない。そこで私の先祖が生まれた水の臭いを探し求めてここ

まできたのです——

カワセミはさっそく源流へ案内した。源流に住む生きものたちは、この住み家を失ったカエルを大歓迎した。

かつて、縄文人たちは清らかな湧き水を求めてこの源流に住み着いた。それ以前から川や周囲の土に住んでいた生きものとヒトは、互いに認め合い、助け合いながら新しいドラマを創ってきた。ヒトは生きものの中で特別な存在ではなく、時に観客、時に役者として、他の生きものと一緒にドラマを創ってきたのである。

大歓迎する生きものたちの姿をカエルはうれしそうに眺めていた。これからどうなるか、天の神様だけが知っている。

ミズヒマワリの花の蜜を吸っているところ。前翅の長さは3cmほど。翅は白いが、前翅と後翅の前縁が灰黒色で、さらに前翅の中央には灰黒色の斑点が2つある。和名はこの斑点を紋に見立てたもの。全世界の温帯、亜寒帯に広く分布する。幼虫の食草はキャベツ、アブラナ、ブロッコリーなどのアブラナ科植物なので、それらの農作物の栽培に伴って分布を広げてきた。

日本のモンシロチョウは奈良時代に大根の栽培と共に移入されたと考えられている。成虫は3月頃から10月頃まで長い期間にわたって見られる。

モンシロチョウ



これからの活動予定

- 9 / 12 (土) 13:30~ まつり実行委員会①
- 15 (火) 大泉南小4年生の白子川授業
- 19 (土) 9:30~竹炭づくり、焼印作業
- 24 (火) 大泉南小4年生の白子川体験
- 27 (日) 定例活動
- 10 / 4 (日) 13:30~ まつり実行委員会②
- 12 (祝) 13:30~ まつり実行委員会③
- 24 (土) 10:00~夕方 まつり準備
- 25 (日) 第15回白子川源流まつり
- 11 / 22 (日) 定例活動
- 12 / 27 (日) 定例活動(12/26 運営会議ナシ)

※運営会議は定例活動の前夜です

今年も楽しい企画を用意します！

白子川源流まつり

10月25日(日)12:00~15:30
大泉井頭公園



定例活動 毎月第4日曜 午後1:30~

編集後記

▼夜になると軒下到大豆のようなフンをする生き物は?? カマキリだと判明した。昔、千葉の実家から持ち込んだカマキリだが、ちゃんと何十年も“練馬生活”している。(ひ)

▼池田正さんの「アズマヒキガエルの想い」シリーズ、一応の終結。ご苦勞様。生き物を見る眼が違ってきた。次号から新たな編集で再スタート。乞うご期待!(あ)

▼帰省途中の高速道のどこかで携帯をなくした。コールはするが場所は? 帰省先で閃々と。帰宅の高速道で心当たりを決死の搜索。ウッソー! 雨と暗さの草むら、コールして光る奇跡のご帰還。(さ)

▼7月の定例で450袋を握り、ひとりでゴミを拾っていた。見ると、草の下で何やら白い粒々がうごめいている。ねずみの死骸にむらがるウジ! ドキんと胸で音がして、なぜか遠い昔に引き戻された。(け)

どなたでも川にはいれます!

発行 白子川源流・水辺の会
編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子
題字 宮本沙海
発行部数 1,250部
代表 菅沢 博 03-3923-8430
練馬区南大泉 1-10-5
suga-lohas@jcom.home.ne.jp
http://www.geocities.jp/sirako_river/
※この会報は年3回発行しています

当会は TOTO 水環境基金の助成を受けています